



高チャリを支える

若いチカラ

高チャリ増車でもっと便利に



▼ここがサイクルポート

JR高崎駅西口側にある高チャリ専用の駐輪場

ショッピングや観光にと、高崎を訪れる人たちに好評の「高チャリ」。市と高崎商工会議所が協力して昨年4月にスタートした無料コミュニティサイクルです。多くの人に親しまれている反面、課題も見えてきました。今回は高チャリを支える若者にスポットを当てます。

●藤田麻美さん



高崎健康福祉大学2年。「高チャリ新聞」の発行やイベントでのPR活動を行う。富山県出身。

●永田梨沙さん



高崎健康福祉大学2年。高チャリの楽しみ方を広げるマップの作成に携わる。福島県出身。

心強い「高チャリ」のサポーター

市長 今日、市役所に来る途中にも何台か高チャリとすれ違いました。若い子たちが楽しそうに乗っていましたよ。

藤田 真っ赤な水玉模様のデザインで、初めは乗っていてちょっと恥ずかしかったんですけど。でも、慣れてきたらこれが高チャリです！ってすぐ宣伝しやすいです（笑）。

市長 藤田さんと永田さんはボランティアで高チャリのPRをしてっていますが、参加しようと思ったのはなぜですか？

藤田 何か新しいことに関わってみたいと思ったからです。高崎にしかない取り組みだと聞いたので興味がありません。

永田 私は友達に誘われて参加しました。活動してみても高チャリの便利さや新しいお店を探す楽しさが分かりました。もっと多くの人に使ってもらいたいと思うようになったんです。

市長 このチラシや地図は学生ボラ



藤田さん、永田さんたち高チャリの学生ボランティアが作成した「高チャリ新聞」と「高チャリマップ」

ンティアで考えて作ったそうですね。

永田 はい。実際にまちなかを歩いて、みんなで何度も話し合いました。

市長 カフェやまちなかの見所など、学生の目線でできていて面白いですよ。

藤田 ありがとうございます。楽しみながら作ることができました。

市長 高チャリが安心して利用できるのは、皆さんのように裏で支えてくれる人たちがいるからです。裏方



市内の若手製造業者が協力してサイクルポートを製作した（写真は案内板の土台部分）

と例えば、山崎さんと井上さんにはサイクルポート（専用駐輪場）のラックと案内板の製作で力になってもらいました。このポートも評判がいいですよ。

山崎 ありがとうございます。ポート製作の話が来たのは、ちょうど井上さんたち若手の製造業者と協力して「高崎のものづくり」を盛り上げていこうと考えていたところでした。

井上 普段は注文どおりの物を作る仕事が多いのですが、今回は企画の段階から参加できました。たくさんの方に自分たちの作った物を知ってもらいたい機会になりました。

市長 千葉県の幕張にできた大型ショッピングモールでもこのポートが採用されたそうですね。

山崎 とてもうれしい話です。今後もどんどん高崎のものづくりを市内外に発信していきたいと思っています。

●富岡賢治市長



高チャリやオープンカフェなどまちなかをもっと盛り上げる仕組み作りを考えている。

もっと使いやすくするために

市長 高チャリに関わってみて、ここが問題だなと感じるところはありますか？

藤田 朝の通勤や通学で使ったまま放置したり、遠くまで乗って行った人する人がいて、ポートに返ってこないことですね。

市長 市外で見つかったという話も聞いています。今度高チャリの台数を50台増やしますが、管理を厳しくすると使ってもらえなくなる。悩ましいところですね。

永田 無料で誰でも気軽に使えるのが高チャリのいい点だと思います。

市長 そのとおりです。高チャリを導入して多くの自治体から視察が来るようになりまして。どの自治体も着目するのは「使いやすさ」なんです。

井上 初めて高崎に来た人でもすぐに使えますよね。

藤田 私は富山出身ですが、富山にもレンタサイクルがありました。でも利用登録が必要なので、乗ってい

●山崎将臣さん



吉井町小暮の(有)山崎製作所の常務取締役。サイクルポートのラックを製作。石原町在住。

る人はあまり見かけませんでした。

山崎 利用している人からは「幼児用のシートを付けてほしい」という意見をよく聞きます。

永田 親子で乗れるようになれば、利用者の幅が広がると思います。

市長 なるほど。それはちょっと考える必要がありそうですね。利用者の幅を広げるという点では、以前、市内に住んでいる外国人から「日本語の説明だけなので高チャリの使い方が分からない」という意見がありました。それですぐに案内板に英語、中国語、韓国語の説明を追加しました。高チャリをとおして外から来た人をもてなす気配りや、観光のPR方法も見直していきたいですね。

まちづくりに参加するきっかけに

市長 高チャリやオープンカフェもまちを盛り上げる一環として始めたものです。私はもっとまちなかに人が集まるようなイメージづくりが必要だと考えています。

山崎 今回、学生ボランティアや市役所の担当者と一緒に仕事をし、「一緒にまちをつくらせている」と強く感じました。自分たちでもまちづくりに参加できるんだと分かれば、進んで地域を盛り上げていこうとする人や企業が増えていくと思います。

井上 そうですね、もっと頑張ろうという気になります。高チャリに関わって、高崎のまちを以前よりずっと身近に感じるようになりました。

藤田 私たちも学生ならではの楽しみ方を考えて、学校や友達の間で広めていきたいです。

永田 今の学生ボランティアは大学2年生が中心なので、これから一緒に活動してくれる人も増やしていきたいですね。

市長 皆さんのような若い人が自分たちでいろいろ考えて動いてくれることが、まちを盛り上げることに繋がっていきます。高チャリがより便利で市民に親しまれるものになるよう一緒に考えていきましょう。本日はありがとうございます。

4人 ありがとうございます。

●井上幸夫さん



倉賀野町にある(株)小野製作所に勤務。サイクルポートの案内板を製作した。前橋市在住。